

GSway

ともに歩み、ともに進む

Vol. **25**

DECEMBER 2025

特集

第9回「グローブシップ株式会社お取引先セミナー」



グローブシップ株式会社 設立10周年記念 第9回お取引先セミナー

GLOBESHIP 10th Anniversary Seminar

2015年にビル代行と日本ビルサービスが統合して新たなスタートを切ったグローブシップ株式会社は、この4月に設立10周年を迎えました。そこで本年のグローブシップお取引先セミナーは、従来とは少し趣向を変え「設立10周年記念セミナー」と題して、社長の矢口よりグローブシップの10年の歩みについてご紹介するとともに、ゲストとして当誌「GSway」に毎回コラムを執筆いただいている落語家の春風亭昇吉師匠を迎え、「落語をビジネスに活かす」というテーマでご講演いただきました。

本特集では、当日の講演の模様をダイジェストでお届けします。

ご挨拶

グローブシップ10年の歩み

本年4月に、グローブシップ株式会社は設立10周年を迎えることができました。これもひとえにお客様をはじめ協力パートナーなど、関係者の皆様のご愛顧の賜物と、心より感謝申し上げます。

これまでお取引先セミナーでは、時流に合ったテーマを設定し、社外の専門家による講演と当社の取り組みをご紹介する形をとってききましたが、今年は当社が新会社としてスタートしてから10周年にあたることから、まず皆様への感謝の気持ちをお伝えするとともに、私からグローブシップのこれまでの歩みと今後の取り組みについてご紹介させていただこうと思います。

当社は、清掃業務に強みを持つ株式会社ビル代行と、設備管理に強みを持つ日本ビルサービス株式会社が統合する形で2015年に誕生しました。ともにビルメンテナンス業界の草分け的存在として70年超の業歴を持つ企業同士の統合でしたが、新会社では、新しい時代に必要とされる総合的なファシリティマネジメントサービスを提供する企業になろうというコンセプトを掲げました。

両社共同で設置した統合委員会で検討を重ね、まず会社の存在意義となる企業理念を「地球にやさしく、お客様の安全・快適な環境づくりに寄与し、社員の幸せと社会の発展に貢献する」と策定しました。新社名はグローブシップに決定しました。「地球環境（グローブ）に優しく、お客様の安全、快適な環境作りを志向（シップ）する会社を目指すとともに、お客様と社員が地球という船（シップ）に乗って共に歩み明るい未来を目指したい」というメッセージが込められて

います。一人一人が新会社グローブシップの創業メンバーの一員としてチャレンジできるよう、社会に対する責任や、職場における心構えを定めた16項目の行動指針「GSWAY」を示しました。

2016年から開始した第1次中期経営計画では「戦略FMパートナーのグローブシップ」というキャッチコピーを打ち出しました。翌2017年には、これらを具体的に記載したガイドブックを作成し、全社員に配布。外国人採用が増えているため、外国語版も作成し、各自がこれを共有して日々の判断のよりどころとして活用しています。

「GSWAY」に関しては、GSWAYコンテストを毎年開催しています。これは、各現場の活動の中でGSWAYの16項目のうち他の現場の参考になりそうな取り組みを評価し、表彰するもので、現場の各人の意識付けを強化するとともに、グループ全体で好事例の共有を図っています。

2020年10月から導入したのが「GS標準オペレーション（GSOP）」です。朝礼・夕礼、指差し呼称、職場

内ミーティングの実施を三本柱として業務品質を標準化することで、より高品質なサービス提供と、スムーズな業務遂行に貢献しています。

2020年からのコロナ禍では、当社の社員もいわゆるエッセンシャルワーカーという世の中に不可欠の存在としてクローズアップされました。GSWAY等の取組みによる社員のマインドが強く発揮できたと思います。

業績については、2016年から3年ごとに3つの中期経営計画に取り組んできた結果、国内市場の変化やIT化の進展、新型コロナウイルス感染症など、経営を取り巻く環境が厳しい中で、売上は統合前の約30%増となりました。とりわけ工事部門の躍進は目覚ましく、外壁改修や空調設備など大規模工事の受注が増加したことで、工事部門だけに限ると新会社設立時から約3.5倍の売上を達成しています。お客様に信頼いただけるパートナーとして認知され始めた証であると感謝しております。

業容については、グループ全体では、原子力関連事業のアトックスを



代表取締役社長 矢口敏和



はじめ、清掃、警備などの業種別の専門子会社4社、地域子会社4社に加え、2015年にはホテル清掃に強みを持つ日東カストディアル・サービス（現 日東グローブシップ・カストディアル・サービス）を買収、2016年には太陽光発電の設備管理を行うTAG O&Mサービスを合併で設立しました。海外企業との提携では、フランスの大手ファシリティマネジメント会社であるソデクソ社との合併で、グローブシップ・ソデクソ・コーポレートサービス（GSS）を設立し、在日外資系企業を中心としたマーケット開拓を行うなど、事業の拡大を図っています。

一方で、課題である人手不足に対しては、DXの活用、教育育成、外国人財の活用などに注力しています。特に、技能実習生の受け入れは積極的に拡大し、2018年1月に技能実習生第1期生としてミャンマーからの8名を迎えたのを皮切りに、現在はインドネシアからも技能実習生を受け入れています。また高度人材としてフィリピンから設備職の受け入れも行っています。

さらに実習生の定着に向けた取り組みにも注力しており、技能実習が終わった後も多くの方が特定技能として元気に活躍いただいています。お客様には、彼ら彼女たちに各現場で

温かく接していただき、誠にありがとうございます。

DXへの取り組みについては、2019年にソフトバンクロボティクス様のAI清掃ロボットWhizシリーズを導入し、改良のための協力も続けています。現在も多くの現場でご採用いただいています。昨年4月からは機能が大幅にアップしたCC1の展開も始まりました。

警備ロボットのアイオロスの検証も進めています。アイオロスは自らエレベーターで移動できるロボットで、これまでの検証結果をもとに、センサー類の更新、360度カメラの搭載、コミュニケーション機能の追加など、機能の改善を図ってきました。現在は当社本社ビルでエレベーターの乗降を含めた巡回運転の検証が行われており2026年1月頃には皆様にご案内できる予定です。

また当社では、非常駐ビルを対象にした遠隔監視システムを運用していますが、これを大幅にアップデートする計画です。

新しいシステムでは、異常発生時に担当者全員が同時に情報を共有することができ、さらに他の作業員の状況も把握できるため、効率的な対応が可能となり、お客様をお待たせする時間が短縮されます。現在、2026年の稼働に向け鋭意検証を進めています。この他、GS研修センターで、ZEBビルの管理、太陽光発電パネルや蓄電池を使った自動デマンドコントロールなどの実験を他社と共同で実施しています。

さて、当社では2022年に第3次中期経営計画において「GS VISION 2030」を策定し、来たる2030年を見据えて、他社とは一線を画す企業になりたいという思いを込め、「FM業界のゲームチェンジャー、オンリーワン企業」というスローガンを打ち出しました。

この目標達成に向けた大きな柱となっているのが、さきほどご紹介したIT、DX、ロボットなどの技術と、人による課題解決力を組み合わせたFMDXです。この分野については今後も他社とのアライアンスに意欲的に取り組み、さらに深化させてまいります。

そして、今年から始まった第4次中期経営計画では、「社員満足を高め、人手不足を克服し、成長を加速しよう」という新たなスローガンを掲げました。

人手不足が慢性化し、人材の流動化の時代において、優秀な人材の定着は不可欠です。私たちは、その決め手は処遇の改善とともに職場環境の整備にあると考えています。働く人にとって仕事に行くのが楽しいと思えるような職場環境を実現するために、社員同士のコミュニケーションの促進や職場での円滑な人間関係の構築など、誰もが気持ちよく働ける仕組みづくりにも重点的に取り組んでいきます。

もちろん、社員の教育研修の機会も充実します。社員は私たちのブランドの体現者であり、かけがえのない資産です。高い意識を持って仕事にあたる社員に対しては、最大限のサポートを提供し、常に一人一人の成長の機会を大切にする会社でありたいと願っています。

私たちグローブシップはファシリティマネジメントに関わるすべての業務において、包括的かつ戦略的なサービスを提供する企業です。お客様にとってかけがえのないビジネスパートナーとして選ばれ続ける存在を目指し、未来を見据えた新たな取り組みにチャレンジしていきます。「地球にやさしく安全で快適な環境づくりを目指す」という理念のもと、エッセンシャルワーカーとしての気概を持ち、皆さまからのお力添えに常に感謝の気持ちを抱きながら、総力を挙げて取り組んでまいりますので、今後ともどうぞご期待ください。

落語をビジネスに活かす

～話し方・人財育成・落語家の世界～

続いては、当誌「GSway」に毎回コラムを執筆いただいている落語家の春風亭昇吉師匠をゲストにお迎えしてご講演いただきました。昇吉師匠は、東大卒の初の落語家であり、現在は落語ユニバーサルデザイン化推進協会の代表理事を務めていらっしゃいます。ご講演では、「落語をビジネスに活かす」と題して、笑うことによる健康効果をはじめ、ご自身のボランティア活動を通じて生まれた落語と社会との接点など、様々なエピソードについてお話しいただきました。

落語家になった3つの理由

皆さん、こんにちは。春風亭昇吉と申します。本日は宜しくお願いいたします。

こういう場に立ちますと皆さんからよく聞かれるのが、「昇吉師匠はどうして落語家になったのですか？」という質問です。ひとことで言えば、落語がとても好きだったということに尽きるのですけれど、大きな理由が3つあります。

一つ目は、ある師匠からいただいた言葉です。

私は大学3年生の時に、全日本学生落語選手権に出場しました。岐阜県岐阜市で毎年行われている落語の全国大会なのですが、そこで私が優勝して、策伝大賞というのをいただきました。その時に審査委員長を務めていたのが六代目桂文枝師匠でした。当時はまだ桂三枝と名乗っておられましたが、新婚さんいらっしゃいで皆さんもよくご存知ですね。その文枝師匠から、優勝した私に掛けていただいた言葉が「落語は荒削りやけど、マクラがオモロイ」というコメントでした。マクラというのは、落語の本編に入る前の雑談というか、小噺というか、噺の掴みみたいなものです。そのマクラが「オモロイ」と言われた。今考えたら、学生に対する社交事例だったのかもしれませんが、その当時はもう間に受けちゃいましてね。大活躍されている師匠にオモロイと言われたのが、



私の背中を大きく押してくれました。二つ目の理由が、私が大学4年生の時に色々なボランティアを行っていた時の体験です。

小学校とか地域の施設とか、様々な場所に落語のボランティアで訪問しました。医療少年院や緩和医療を行うホスピスなどにも伺いました。

その中である時、八王子盲学校という所にこちらからメールで連絡しました。カリキュラムの中に入れてもらいました。

当日、学校に着いて、控え室で担当の先生と話していましたら「落語を演っていただくことは大変ありがたいのですが、当校には色々な状況の子どもたちがいまして、古典落語は少し難しいかもしれません」と言われました。

お話を聞いてみると、視覚障がいとひとことで言っても、色々な状態があって、障がいの度合いによって必要

な支援も異なりますし、知的障がいなどの複合障がいを持った子もいることを知りました。

ところが、いざ蓋を開けてみると、私が今まで受けたことがないくらいの大爆笑になったんです。一席終わった後に皆んなに「どうだった？」と聞いてみると、「とっても面白かった!」と笑いながら言ってくれました。子供は愛想笑いしないですからね、すごく嬉しかったです。

しかも「声が聞きやすかった!」とも言ってくれたのです。私は声がちょっと高くて通りやすい声質なので、そう感じてもらえたのかもしれませんが、耳を頼りに生きている子供たちに、声が聞きやすかったと言われた時は、それはもう涙が出るくらい嬉しくて・・・大学時代の一番の思い出になりました。

先生たちともお話しさせていただき



ましたが、驚いたのは「子どもたちには噺の上下(かみしも)が分かる」ということでした。

舞台では、客席から見て右側を上手(かみて)、左側を下手(しもて)と呼びます。落語の場合、「上下を切る」などとも言いますが、落語に登場する人を、左右を向きながら演じ分けることで、喋っている人物たちの臨場感を生み出します。これが落語の本質なんです。

この上下を切っているのが、子どもたちには分かるんですね。目の不自由な子供たちにとっては、私が右を向いたり左を向いたりして喋っている声が、狭い教室の壁に当たって反響した音の違いから、どっちを向いているかが全部分かるんだそうです。さらに、耳から入ってくる音声情報から、誰が話しているかだけでなく、どんな気持ちで言っているのかな？ということまで考えて聞いているのだそうです。想像を喚起する能力にすごく長けているということですね。

そうした子供たちに、声が聞きやすかったと言われたのが、私が落語家になろうと考えるようになったきっかけとなりました。

そして三つ目ですが、私は大学生の頃に、年間200席以上、生の落語を

聴いていました。色々な師匠の落語を聞く中で、私の師匠であり、笑点の司会者に選ばれた春風亭昇太の落語を生で聞いた時に「あ、これなら俺にもできる!」と思ったのが、落語家になった3番目の理由です。

笑うことは健康に良い!

落語の健康効果について少しお話します。昨今、笑いが健康に良いということが盛んに言われています。巷ではコロナやインフルエンザが流行っていますが、落語は人間の免疫力を上げてくれるのだそうです。健康を維持するためには、十分な睡眠、しっかりした栄養、適度な運動、それからお風呂に入ることも良いそうですが、それと併せて、積極的に笑うことによってナチュラルキラー細胞が活性化されて、免疫力が高まるのです。初期のガン細胞が消滅したなんていう話もあって、筑波大学の研究グループがそのメカニズムを解明しています。NHKで立川志の輔師匠も言っていたので間違いのないと思います!ガッテンしていただけましたでしょうか?

今年は戦後80年であり、昭和元年から100年にあたるとのこと。

戦後のベビーブームに生まれた団塊の世代の方々、日本の人口の中で一番ボリュームが多いそうです。ピートたけしさんも、隣の晩ごはんのヨネスケ師匠も、三遊亭小遊三師匠も、皆んな後期高齢者になりました。これから平均寿命が100歳という時代になると、4人に1人の方が認知症になると言われています。怖いですね。

ですから、普段からよく笑って、免疫力を高めてください。認知症予防にもなります。

私は気象予報士の資格も持っていますが、よく夏場に「熱中症にならないよう喉が渇く前に水を飲んでください」と言ったりしますが、落語もそうで

すよ。落語家が面白いことを言う前に笑ってください。そういう積極的な姿勢が大切です。

私が好きな言葉に「スマイルフィードバック」というのがあります。相手に笑顔返すということ、大切だと思います。

皆さんも会社では難しい仕事をなさっていて、責任も担っておられるので、笑ってばかりじゃいられねえんだよって思われるでしょうが、感染予防のマスクの下でも積極的に口角を上げてみてください。そういった小さな努力が、認知症の予防効果や、免疫力のアップにつながるのではないかと思います。

笑っている人と付き合っていると、こっちも笑顔になれると言います。これ、ミラーニューロンと言って、他者の行動によって、自分の中でもその感情を体験したような神経活動が起こるという脳科学の理論です。逆に、しかめっ面をしている人と一緒にいると、その表情が自分に移ってしまうので注意しましょうね!

ユニバーサル絵本を作りたい

先ほど、盲学校にボランティアとして伺って落語を披露した話をしましたが、それがきっかけとなって作りたいと思い始めたのが、落語のユニバーサル絵本です。

皆さんもユニバーサルデザインという言葉はご存知だと思いますが、国籍や性別、障がいの有無に関わらず、すべての人が利用しやすいように設計された製品のことを言います。

例えば、お気づきの方もいると思いますが、シャンプーのボトルには触って分かるような横線のキザギザが刻まれています。また、多くのエレベーターでは、車椅子の方が出入りしやすいように鏡が設置されています。

古い話をすれば、江戸時代にも既にユニバーサルデザインは存在していました。和菓子屋さんで売っている柏餅を思い出してみてください。餅に巻かれている柏の葉ですが、中に小豆餡が入っている柏餅は葉っぱを普通に巻いているのに対し、中に味噌餡が入っているのは、葉っぱの裏側を見せるように反対にしてくるんでいるんだそうです。見ただけで、あるいは触っただけで中身が分かる、正にユニバーサルデザインです。

私が落語のユニバーサル絵本を作りたいと思った時に、公益財団法人 共用品推進機構の星川安之さんという方に色々相談させていただいたのですが、その際、目の不自由な方が必ずしも点字や触図で理解できるわけではないということを知りました。そこで利用しようと考えたのが3Dプリンターでした。

多くの盲学校には3Dプリンターが設置されています。現在の視覚障がい教育においては、触覚の活用がとても重要であり、3次元で表現された立体物は理解を促す上でとても有益な道具となります。

私が学術顧問を務めさせていただいている海城中学高等学校の模型部の皆さんの協力を得ながら進めたのが、落語の「まんじゅうこわい」に出てくる動物や虫、食べ物などを3Dプリンターによって造形物とすることでした。その試作品を使って、高田馬場の日本点字図書館でワークショップを開くなどして、落語ユニバーサル絵本を形にしていきました。

ご興味のある方は、合同出版から発売されている点字つき触る絵本「まんじゅうこわい」をぜひ手に取って

てください。落語は人生を活気付けてくれます。そして、人間の失敗を描き、人間の弱さを肯定する落語は、私たちに励みを与えてくれます。あの小泉進次郎さんも、自民党国会議員の有志で「落語を楽しむ、学ぶ国会議員の会」通称・落語議連というのを作っています。

皆さんもぜひ落語を楽しんでください。そして、盲学校への落語家派遣活動も応援していただければと思います。本日はありがとうございました。

※この他にも、昇吉師匠には前座修行の思い出や稽古のコツなど様々なお話をいただきましたが、誌面の都合により割愛させていただきました。

Profile

春風亭昇吉 落語家・落語ユニバーサルデザイン化推進協会 代表理事

1979年岡山県生まれ。史上初の東大出身落語家。在学中に全日本学生落語選手権・策伝大賞で優勝し、東京大学総長大賞を受賞。2007年に春風亭昇太師匠に弟子入り。厳しい修行時代を経て、2021年に真打昇進。2023年に一般社団法人落語ユニバーサルデザイン化推進協会を設立。海城中学高等学校「海城学術顧問」に就任。2024年には東京大学創立150周年記念事業150人委員会に選任。気象予報士やテレビ番組の司会等、広範に活動を展開している。主な著書は「マンガでわかる落語」(誠文堂新光社)、点字つき触る絵本「まんじゅうこわい」(合同出版)など。

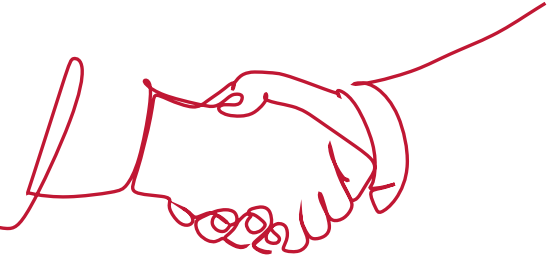
セミナー終了後に懇親会を開催

設立10周年記念セミナーの終了後には、ご来場いただいたお客様と当社社員を交えた懇親会が開催されました。冒頭に、専務取締役の瀬本陽一郎から開会の挨拶を述べ、これまで10年間のご支援に感謝の意を表するとともに、皆様のさらなる発展を祈念して乾杯の音頭を取らせていただきました。

懇親会には本日のゲストスピーカーである春風亭昇吉師匠にもご出席いただき、お客様からの様々なご質問にも応えていただきました。また、社長の矢口が会場を回り、多くのお客様と、ご挨拶させていただく機会を作ることでもできました。お客様は終始和やかな雰囲気、懇親会をお楽しみいただけたご様子でした。



お客様とともに歩む。vol.16



「千葉商科大学」



広々とした緑豊かなキャンパス

Building Profile

所在地

千葉県市川市国府台1-3-1(市川キャンパス)

竣工：1959年に旧1号館が完成。近年では2014年にメガソーラー野田発電所、2023年に付属高校新校舎、2024年に大木戸ソーラー発電所が竣工。

敷地面積：大学 約107,690㎡、
付属高校 約35,894 ㎡



人生100年時代に必要な力を徹底した実学教育で修得する

千葉商科大学(CUC:Chiba University of Commerce)は、1928年(昭和3年)に巢鴨高等商業学校として創設されました。その後、戦災により施設が焼失したことから千葉県に校舎を移し、1950年には名称を千葉商科大学と改め、商学部商学科が開設されました。同校では設立以来一貫して、社会の多様化や国際化などの変化に即応できる人材を育成すべく、実学を重視した教育を実践してきました。そして、学生自身が自律的かつ主体的に学べる環境の整備を着実に進めてきたことで、入学希望者はここ数年で急速に増えています。

一貫して「実学」重視の教育方針を実践

千葉商科大学の創立者である遠藤隆吉先生は、新しい時代の商業を、実社会で役立つ「実学」を通じて学ぶ必要があると強く説いていました。その建学の理念は、大局的な見地に立ち、高い倫理観のもとで社会に奉仕する人材を育成するというものでした。この「実学」を重んじた教育方針は現在まで変わることなく、社会で通用する知識を実践しながら学べる環境を着実に整備してきました。

特に学生支援に関しては、修学支援や生活支援に加え、社会性を育む課外活動の支援、さらには卒業後のキャリア支援といった多角的な取り組みにより、主体性と自律性を備えた人材の育成に注力しています。その結果として、同校の卒業生の就職率は非常に高く、2025年3月の卒業生の就職率は実に98.4%に及びます。こうした環境の中、学生の学びの場であるキャンパス内の施設管理業務は、日々怠ることのできない重要な仕事です。現在

グローブシップでは、千葉商科大学の市川キャンパス、および大学から北に1kmほどの場所に校舎を構える千葉商科大学付属高等学校の2校の総合管理業務を受託し、設備、清掃、警備の各業務を担っています。

広大なキャンパスを総勢74名のスタッフで管理

まず、設備業務においては、電気、空調、給排水、衛生といった施設全般にわたる業務を、14名の設備員により行っています。設備業務には、学内で行われる各種イベントの設営作業という独自の業務が含まれます。イベントは年間200件以上開催されており、その業務は、会場の机、椅子、パーティションの設置や、仮設電源や看板の設営など多種にわたります。次に、清掃業務は、当社のグループ会社である千葉グローブシップ(株)の社員を中心に、教室、廊下、トイレ、体育館など専用部の清掃、外構や共用部の清掃を、計39名のクリーンクルーと、大学が雇用する障

がい者2名の混成チームで行っています。千葉商科大学の施設管理業務を統括するのが、株式会社CUCサポートです。同社で施設管理部 部長を務める池田朝美様は、グローブシップの清掃品質について次のように話します。

「大学と付属高校の清掃を一括してグローブシップさんをお願いしていますが、清掃員の皆さんはいつも朝7時頃から作業を始め、路面の落ち葉掃きから教室やトイレの清掃、黒板の拭き上げまで、学生がいつも気持ちよく過ごせる環境を維持してくれています。最近は学生自身が運営する食堂に外部のお客様が来訪される機会も増えています。こうしたスペースを常に清潔に保っておくことは、大学のブランドイメージを向上させるとともに、近隣の皆様との良好な関係を築いていく上でも重要です」

そして、警備業務においては、グループ会社であるグローブシップ警備(株)の計20名の警備スタッフが24時間365日体制で勤務し、構内の巡回、入退館管理を始め、教職員、学生、施設利用者の安全確保を最優先した警備活動を行っています。また通常業務の他にも、火災対応訓練や不審者対応訓練などを定期的に実施し、万が一の場合にも迅速かつ適切な対応が行えるスキルの向上を図っています。これらスタッフに、統括管理業務を行う責任者1名を加えた計74名が、千葉商科大学の日々の施設管理業務をサポートしています。

学生の自主性を重んじ、全力で支援する

千葉商科大学は2028年に創立100周年



株式会社CUCサポート 施設管理部 部長 池田朝美 様(左)
グローブシップ 千葉商科大学出張所 統括管理責任者 新井慎一(右)

を迎えます。同校では100周年に向け、教養教育と専門教育の一層の充実を図ることで、社会科学の総合大学となることを目指しています。さらに、学生の採用・育成に積極的に協力いただける“CUCアライアンス企業”を現在の800社超から拡大し、卒業生の活躍の場を強化していくことも目標としています。

また、学生の自主性と自律性を伸ばすための支援も積極的に行っていく考えです。同校では現在も、学生による様々なプロジェクトが進行しています。例えば、前述した在学生が運営する「学生ベンチャー食堂」には、テナントの提供や、光熱水費・ゴミ廃棄処分費・人件費などの補助を行っています。また「CUC100ワインプロジェクト」では、学内にぶどう畑を作り、創立100周年に向けて大学オリジナルワインの醸造に挑戦しています。このプロジェクトの運営関連業務もCUCサポートが支援しています。

現代の学生気質について、CUCサポートの池田様は次のように話します。「最近の学生は本当に真面目で前向きな方々が増えてきたと感じます。当社は今後も、そうしたやる気にあふれた多くの学生たちの自主性を重んじ、より快適で楽しい学生生活を送っていただけるよう全力で支援してまいります」



学内のぶどう畑から生まれたとワインと焼酎

グローブシップ 千葉商科大学出張所 統括管理責任者 新井慎一

お客様に品質の高いサービスを提供し続けていくために最も重視しているのは、スタッフ間の良好なコミュニケーションです。当出張所では毎日午後に、設備・清掃・警備・統括の各責任者が集まりミーティングを行っています。そこでは今後の作業の連絡や、発生している課題など、些細なことでも話し合うようにしています。これにより連携と統一性が生まれ、部門を超えて協力し合う関係も自然に形成されました。今後は、現在2拠点に分かれている機械棟と中央監視室を1拠点に集約することで、さらなる業務効率化を図っていけるよう、お客様と具体的に情報交換を進めていきたいと考えています。

大学：設備9名、警備16名、清掃36名
付属高校：設備、警備、清掃12名
統括管理：1名(所長)



WELCOME! グループ会社へようこそ！

全国に広がるグローブシップグループのネットワークをご紹介します。



グローブシップ警備株式会社

人と機械の融合で セキュリティサービスの品質を追求

当社は創業以来、ビルや施設などの有人警備に加え、24時間監視の機械警備システムを活用したセキュリティサービスを提供しています。施設警備の他にも、「安心と安全をお客様へ届ける」という使命のもと、駐車場管理、交通誘導警備、ホームセキュリティ、管理人業務、イベント警備、保安警備、身辺警備など、多様なニーズに応じた質の高いサービスによって社会のさまざまな場面を支えています。

当社は1979年に、グローブシップの前身のひとつである日本ビルサービスと、当時アメリカの三大警備会社の一つであったワッケンハットコーポレーションとの合併による“ワッケンハットジャパン株式会社”として誕生しました。

創業当初は日本ビルサービスが契約する警備業務の一部として有人による施設警備を担っていましたが、1983年に日本ビルサービスが設備遠隔監視用に開発したシステムを流用し、機械警備システムとして導入、新たに遠隔による警備業務を開始。それ以来、オフィスビル、学校、商業施設、マン

ションなどを対象に、お客様の規模やニーズに合わせて、有人警備と機械警備を組み合わせた最適な警備体制を提供してまいりました。現在もこの2つの警備サービスが当社事業の中核をなしています。

私たちが提供している警備という仕事は、何も起こらなければほとんどクローズアップされることのない職種です。しかし、いざ有事の際には、その存在に大きな価値を感じていただけると同時に、的確な対応を行うことで初めて正当な評価が与えられる業務でもあります。ですから、常日頃の心がまえと有事への備えが大切であり、防犯と防災の両面で訓練を重ね、社員一人一人のスキルを日々高めていくことが非常に重要です。

そのため当社では、指導教育課のもと、入社時の新任教育(20時間)と、既に現場で活躍している社員の現任教育(1年間で10時間の受講が必須)を実施しています。警備業法に関する講義や警報装置など各種機器の操作訓練などを通じて、全社員を対象としたスキルアップを図ると共に、接遇

マナーなどサービス業としての意識向上にも取り組んでいます。

今後は、警備ロボットやAIカメラを活用した無人の警備システムなど、最新のテクノロジーも積極的に導入していくことを計画していますが、どんなに技術が進化しても、警備業務の中心には、五感を駆使して異常を感知できる“人”の介在がまだまだ不可欠です。当社はこれからも、人と機械の豊かな融合によって警備業務の高度化を図り、セキュリティサービス全体の品質を限りなく向上させていくことを目指しています。



グローブシップ警備株式会社
代表取締役社長 宇賀神 宏

当社でも人手不足は大きな課題の一つです。一部で機械化も進んでいますが、警備業は人に依る部分が大きい仕事です。スタッフの高齢化に対処すると同時に、賃金の適正化にもしっかり取り組む必要があります。その上で、当社の柱である有人警備をさらに伸ばしていきたいと考えています。

会社情報 グローブシップ警備株式会社

所在地: 東京都港区芝4-11-3 芝フロントビル 3F
設立: 1979年8月(2015年4月にエヌビーエス警備株式会社より現社名に変更)
事業内容: 建物・施設の常駐警備業務の受託、機械警備システムの企画・設計・施工および管理業務の受託、保安防災に関するコンサルティング業務の受託 他
主要取引先: 榮太樓ビル、紀伊國屋ビル、共栄火災本社ビル、駒場学園高等学校、蚕糸会館、千葉商科大学、千葉商科大学付属高校、東洋水産本社ビル、明治学院中学校／東村山高等学校、明治安田ヴィレッジ駐車場 他(五十音順)
社員数: 177名(2025年9月現在)

優秀出張所・部支店表彰式を開催

7月23日に本社会議室にて、当社の恒例行事である優秀出張所・部支店表彰式を開催しました。出張所表彰では目標管理シートを提出した251の出張所を対象に厳選な評価を行い、また部支店表彰では出張所のサポートなど会社の業績に多大な貢献をしたと認められた部支店を選びました。

授与式にあたって社長の矢口は「グローブシップは設立10周年を迎えた大きな節目に過去最高益を達成することができました。この成果は、今日ここにいる皆様をはじめ、全社が一丸となって努力した結果です。社員の皆様にあらためて感謝の意を表します」と述べました。

出張所表彰の総合賞、および部支店表彰で1位に輝いたのは以下の部門です。

＜出張所表彰 総合賞 総合管理部門 1位＞ 営業一部 幕張テクニカルセンター
＜出張所表彰 総合賞 単一管理部門 1位＞ 営業三部 三菱商事ビルディング
＜本社部門表彰 1位(金賞)＞ 営業五部
＜支店表彰 1位(金賞)＞ 名古屋支店



本社部門表彰



支店表彰

第7期・第8期技能実習生が入社

グローブシップには100名を超える技能実習生・特定技能1号が在籍していますが、この夏、さらに新たな仲間が加わりました。7月にはミャンマーからの18名(7期生)、9月にはインドネシアからの8名(8期生)の入社式が行われ、研修後の現在はそれぞれの現場で活躍しています。

入社式で社長の矢口は「母国を離れ、日本で働くというのは大きな決断だと思います。当社は生活面の支援や研修制度などを整え、日本語研修の専門講師もいます。日本に来て良かったと思ってもらえるようサポートしていきます」と技能実習生たちに語りかけました。

南海トラフ巨大地震を想定しBCP訓練を実施



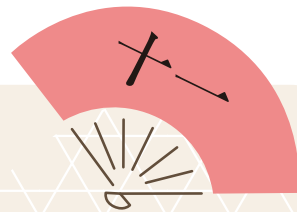
10月8日に全社BCP訓練が実施し、災害対策本部メンバー、営業本部、対象出張所、管理本部の部長、グループ会社などから173名の社員が参加しました。南海トラフ巨大地震を想定した内容で、当社の「BCPマニュアル」と、本年4月に制定した「南海トラフ地震臨時情報発表時の防災対応」に基づいて行いました。訓練では、社員の安否確認の集約、インフラ状況の確認などの他、被災1週間後を想定した被災支店への支援要員、物資手配、復旧活動状況のシナリオなど、時系列によるフェーズ毎の対応が実行され、参加者からは大きな成果があったとの評価を得ました。

韓国ビルメンテナンス会社が来日

毎年恒例となっている、韓国のビルメンテナンス会社ASTA IBS社の研修団が今年も来日され、39名の皆さんが10月17日に当社を訪れました。14回目となる訪問では、まず午前中に警備ロボットアイオロスや清掃ロボットWhizシリーズ、CCI、フリーアドレス制のオフィス、社内コンビニなどを見学。午後は千葉県柏市のアトックス技術開発センターで研究開発のショールームを見学した後、グローブシップ研修センターでビルクリーニング資格の説明や練習試技を受けた他、訓練棟では給排水や空調、電気設備の説明を聞かれました。



春風亭昇吉の 耳寄ばなし与太ばなし



落語の楽しみとは何でしょうか。ひとことで言えば「人間の
本質を笑いに変える芸」と言えるでしょう。酒や博打、異性との
関係といった古今東西の失敗談、夫婦げんかや親子の情愛、嫉
妬や見栄や欲望といった感情——人間の弱さを、笑いながら愛
おしく受けとめる。それが落語です。

四百年もの時を経て残ってきた古典には、時代を超えて洗練
された普遍性があります。そして現代の八百人の落語家が、そ
れぞれの味付けで料理する。まるで同じ楽曲をさまざまな演奏
家が奏でるクラシック音楽のように、聴き比べる楽しさがあり
ます。

初めて落語を聴くなら、まずは名人の名演を。下手な落語に
当たってしまうと、苦手意識が残ってしまいます。寄席は気軽で
すが、当たりはずれがあるのも事実。初心者には、売れっ子の独
演会やホール落語が安心です。最近はYouTubeでも名人芸を味
わえます。寄席では多様な噺家に出会えるのが魅力で、ホール
落語ではお気に入りの一人をたっぷり楽しめる。どちらもそれぞ
れの良さがあります。

演じる側からすると、客席が沸く瞬間は「間(ま)」がよかった
とき。登場人物を演じ分け、会場全体が一つに呼吸を合わせ
る。これは録画ではなくライブだからこそ伝わる醍醐味です。
「芝浜」「井戸の茶碗」「紺屋高尾」などの人情噺や、前座噺でも
「初天神」「子ほめ」などは、初心者でもきっと満足できるはず
です。

私自身、図書館で聴いた昭和の名人のカセットで「面白い!」
と心を掴まれ、談志師匠の落語に夢中になったのが始まりでし
た。今は演じる立場となり、落語が単なる笑いではなく、人間の
真実を描いていることを実感しています。だからこそ、落語に触
れると人を客観的に見られるようになり、弱さや失敗を温かく
受け止められる。人生そのものが少し生きやすくなるのです。



どうぞ一度、落語を聴きにいらしてください。
きっと人生が愉しく、豊かになります。

もっとも、寄席で隣のお客さんが大いびきを
かいていたら、それもまた「人間の本質」かもし
れませんが。

落語の 楽しみ 方



春風亭昇吉／落語家

1979年岡山県生まれ。史上初の東
大出身落語家。在学中に全日本学
生落語選手権・策伝大賞で優勝
し、東大で初の総長大賞に輝く。
2007年に春風亭昇大師匠に弟子入
り。厳しい修行時代を経て、2021年
に真打昇進。気象予報士やテレビ
番組の司会等、広範に活動を展開
しています。